



いわたじょうじ  
岩田 義治

質問

小中一貫校の現実化は？

回答

現状は、保・小・中の連携で対応します

〔教育長〕

質問

小中一貫教育学校を、市町村が自由に設置できるように制度化する改革が、国で検討されています。と言っても、すでに現行法の中で全国で私立校を含め100校以上がこの小中一貫教育を実施しています。

戦後少しずつ子どもの身体的特徴や読み書き能力が2歳分ほど早

くなり、現行の「6・3学制」と合わないという調査もあり、教育制度の改革が求められています。

一方、「中1ギャップ」と呼ばれる問題があります。これは中学校に入学すると、不登校やいじめが多くなったり、授業についていけなくなり、悩む生徒が増える現象をいいます。

小中一貫校を実施している学校では、共同の学校行事、交流給食、避難訓練など児童生徒が一緒に交流する微笑ましい姿を見ることがができます。

上級生は下級生を想い、下級生は上級生に憧れをもつなど、情面や規範意識では成果が見られるといえます。学力の面では、中学校の先生の専門性を生かし、小学校で教えるこ

とで具体的に授業がよくわかるというデータもあります。

町では、この件についてはそれほど緊迫感はないようですが、将来の学校教育のあるべき姿と少子化、統廃合などを鑑み、この制度をどのように評価されますか。

回答

小中一貫校の校舎の型としては、連携型・併設型・一体型があります。

当町の場合は、連携型で、その現状は、小中学校が散在しているため、先生や子ども達の移動には時間や経費がかかります。

また日常的な問題として、先生の時間割の調整が重要になります。当町でも、現在、小学校の先生が、保育園で保育体験をしたり、また保育士が、小学校

の研究会や年長の園児の小学校探検に関わったりして保・小の連携を深めています。

小・中の連携では、生徒指導、教育研究会など、小・中学校の枠を超えた活動や研究を実施しています。

他の連携型の良さを参考にしながら、中1ギャップを乗り越え、

教科・生徒指導、体験活動などの充実を図っていきます。

年長園児が小学校を探検（結小学校で小学生とぶんぶんゴマ遊び）

